



新板
繪入

西島福造

為流
あう
あは
と

三

三

三ノ目
入



1463
9



13
1463
3



高麗性理の巻之三

高麗性理の巻之三

丘氏之記

世々 日本男女色 撰集

目録

① 二止法きのあわれとて
成法はとてくろく釋れ真のよ

② 太教が打おと強洗れ鳴音
はくあそくさハ陰うととさ

讀書心得之記
一可成丁寧ニ讀ベキ事
一破損及塗墨スベカラズ
一又貸ハ一切嚴禁之事
一火ノ上ニテ心ス讀ベカラズ
一讀書中 中央迄讀候節
ハ心ス採ヲ入置ベシ決シテ
本ヲ折ベカラズ
右之條魚ノ相守可申者也
藤井氏藏書

③ 因内が頼ハニ分別れ種
らんくといは勝る二人の勢ひ

④ 一札と書て和くいらの友
水の流るく大旨れは

⑤ ちやこのかりりどらね

いまのこいせのま
娘の意ハ小登門れ風

お徳あとお徳巻之三 多尻推考

世 日本男女色徒着

① 二足はきこれあきまじり

山芋の切とゆて悪性お家れ後世と夫か
ら也。給のらよ舊と存ん。其方掃て教
役となる。巻角今目もて巻角門の関瀬
あきねが後をれ素那らめ。何貴源と物。何有
後と物。はの君ら。ひろいねよ。こ人とあ。風俗
あり。仲氣危の門ハ一生とて。ね程の女様ひ





そのご後ハ一人よかしてつけ七色養ひつてやがて
おし加ふほどは後ハさうくくこわうことものわざ
もおしこらごうれつりそりし海舟そのうち
よりよりさうと色さうして萩野氏あまうらむを
よおしつて出るんそれお芝居人ある程れあ
にもどめあせぬお。後ハお八守海をといか
もえんさうおみふらん山下少之苑川他派などよ
度くおおんのよしむ何きぬをなるといふおすか
そくくたことずまこの入るるそのさうれあもよと
おくやどの後ハけれ遠人はれあてさうるおん
もさうと後ハ家来の侍り羽織たぬ
くはさるるおとともさうつきのとく見

形し業也し定むと防分食成るは内徳れ
不中成と都て名もさ代々の垢物も
ごう成りあり氣よ入平向お款とわらう
どくとん鹿アんふらづまんこの包つし姿も
面やしさやうのやハ愛もあつど易ひふ
とひぬりさやくとあひ鼻てわひーらひきり
おてんなとぬよさうきなハさうぞやび新んよ
おやさんび二人の大臣よ所おんありしお款しこる
は本出流らうさうと先え所らうあてぬん

或時源と勅撰と勅太教たせなと
二 大教の打お次強流の唱者
祇園町

云々教とて大さるん津を教にもアんれ大臣
足六七人れを教来社他人と向人らう集め十二人
れ大さるん有云振あぬり隣を教れさるん人
もを氣ぬる音のらう振げ方にはも来しわれ教と
はくし余かさうり。とあれさるんつとたせうけ
かりぬれぬを振しハ菊川さまを命とせん所はうかえ
といひ村らおぬしその所よ筒井五十郎 吉合也。
と後七振るをし振しあぬり下びしを教あつ。
外のうさるやようん深さぬ源さぬ水親よつぬハ
年のごくたせこのよれらうしひくよのかさあ
だ。何をも受てあしハ金も金もようんがまよ
ハ居相模れ所ありその外ハ何さよせんなと云

よわくそわき薄たぬ唐紙一をわあてに
菊を居合せしむとて方十部七きはごう
うくま悪口の口は板方一糸束一もたごごう
とハ芝板大の糸しあやうらんはしませ場悪か
らぐくとをまもろく唐紙わけはくこの方
十部ゆゆりとし芝板れあせのまく板紙とぬ
いで湯くそを菊を命ごのつごあいのあらら
おしこららにたぬて入ごまのらよハ唐中此種
税よなりをきとあごたぬんごのまごをぬ
まごまんがぬふとごりく茶ご二浴ごんてわ
がり袖の袖がたぬりませぬ佛堂れぬりけ
えぬごこけごごりぬお鼻かごまごぬご

河津板とめさうにせしハ板ませぬごハこれ
草ごぬめとけりあひあごご二浴ご
ごごりぬすりごごりぬつごご茶よひせ
ごごごごごごごごごごごごごごごご
よごごごごごごごごごごごごごごご
たごごごごごごごごごごごごごごご
てごごごごごごごごごごごごごごご
さげてごごごごごごごごごごごごご
三 国心は分別れ種
角て深し物懐し物サ茶ゆとごごごごご
りごごごごごごごごごごごごごごご

秘藏もぬがとよのまゝとあゝく久ね世経も
ぐるまうきしことつりりらやむ教の相様
大源派も幼少のまゝなまをなまことしめ
先の教三人違れ下へ編者よひきしこと
あけおれを教まのりや育も落々花の影
屏風とたひや花敷下へ疎れしこと
もたあけたるまゝなまびとよる門圖十
あらしの勢勢ひよもゆきう。海も物波も物
云根はお働よあひ町也の志もまきりゆき
是よりゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
れかひゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
よ塔急なる人よあやむむむむむむむむ

指はてもゆきゆきの志もまきりゆき
よくゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきの志もまきりゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あゝゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
か味。腹のゆきゆきゆきゆきゆきゆき
よくゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
云氣付一ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
は一云よあゝゆきゆきゆきゆきゆき
善角町也よゆきゆきゆきゆきゆきゆき
れゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
又十希よゆきゆきゆきゆきゆきゆき

秘藏

十



ぢもあまのり押付くろくくおとあげろく毛
 堪^え悉^えれらうふとく子^この位^い念^{ねん}ぞとむねん
 りよるるま^まんげと六^{ろく}が中^{ちゆう}板^{いた}も^もの^のひよよ
 あうんや^や美^みと^とはく^くしては^はあ^あか^かる^る勢^{せい}無^む大^{だい}
 分の又^{また}十^{じゅう}命^{めい}は一^{いち}云^いよ所^{しよ}は^はづ^づも^も方^{かた}り^りぬ^ぬむ
 け^け方^{かた}も^もな^なく^くど^どく^くね^ねあ^あら^らき^きひ^ひの^のど^どれ
 不^ぶ烟^{えん}法^{ぽう}さ^さう^うく^くい^いふ^ふ題^{だい}よ^よあ^あら^らい^いう^うか^かり^りさ^さと
 ぬ^ぬめ^めん^んさ^さい^いふ^ふあ^あん^ん笑^{わら}て^て元^{げん}氣^き血^{けつ}氣^きさ^さん^んの^の音^ねと
 身^みの^の流^{りゅう}守^{しゅ}で^で強^{きやう}弱^{じやく}の^の陽^{やう}守^{しゅ}中^{ちゆう}り^りく^くその^{その}ふ^ふん^んま^まて^てハ
 怪^{かい}急^{きゆう}攻^{こう}さん^{さん}さ^さい^いふ^ふ又^{また}十^{じゅう}命^{めい}の^の草^{そう}履^{りふ}元^{げん}す^すん^んあ^あら^らい^いは
 れ^れぐ^ぐう^うり^りの^の強^{きやう}統^{とう}ん^んご^ごを^をか^かし^して^て着^{ちやく}たり^りし^しが
 呪^{じゆ}め^めん^んき^きら^らく^くや^や既^いま^まう^うり^りの^の力^{ちから}ぢ^ぢま^まん^んニ^ニ人^{にん}は

ぬすれさあさわい孫^{まご}く^くあ^あゆ^ゆり^りぬ^ぬり^りぬ^ぬれ^れそ
 ん^んさ^さう^うく^くど^どあ^あさ^さう^うま^ま年^{ねん}を^をう^う孫^{まご}ま^まは^はあ^あの
 世^よ難^{がた}ま^まは^はて^てり^りち^ちめ^めが^が彩^{さい}え^えに^にれ^れく^くせ^せう^うは^はう^うに^に
 襪^{わく}抱^{かか}よ^よね^ねら^らひ^ひく^くハ^ハは^は冥^{めい}門^{もん}の^のあ^あひ^ひの^のま^まは^は
 ら^らん^んと^と云^い懐^{なつか}し^し命^{いのち}笑^{わら}て^てし^しや^やが^がう^うま^まさ^さと^とあ^あら^ら粉^{こな}よ
 ら^らく^くう^うん^んと^とさ^さん^んで^であ^あら^らと^と深^{ふか}く^く物^{もの}あ^あら^らく^くと^とさ^さく
 め^めあ^あら^らと^とハ^ハお^おと^とあ^あけ^けな^なく^くあ^あく^くの^のま^まに^に掛^かる^るま^ま
 よ^よ世^よと^とい^いの^の者^{もの}を^をま^まう^うく^くよ^よあ^あら^らま^まを^をあ^あま^まと^と押^お
 去^さり^りぬ^ぬ板^{いた}冥^{めい}門^{もん}よ^よひ^ひく^くを^をは^はき^きん^んご^ごの^のあ^あら^らま^ま
 さ^さう^うり^りな^なう^うか^から^らく^くさ^さと^とも^もい^いや^やま^まざ^ざれ^れた^たん^んは^は
 け^けい^いま^まら^らく^くさ^さと^とく^くそ^その^の人^{ひと}の^の流^{りゅう}一^{いち}と^とは^はま^まま^ま海^{うみ}い^いぢ^ぢと^と
 力^{ちから}さ^さく^くと^と今^{いま}れ^れつ^つあ^あら^らぬ^ぬ美^み瑠^るの^の人^{ひと}と^と大

切ふふよこりきと下布ふハきしこ子か。並
 外ハゆりまじりわく供教成るまじりこ。何れ
 こがしきもひつつけ。一睡の夢よせし今一云
 こひて片よ座の去らぬ見てもさしひよ
 世んこの種ぞこまといり。園内安てこハ新き
 報云んはんありしと。暇拾ぬんとまらんと
 といさんちりいと深き物うの法も。同うりも
 抄といふ深き物よは里の祥なりと云
 こまこりそのうと。所えんよはよまると云
 うりともく候と物こりこ中よのり
 けり今報ハいまと。建仁寺のたうりし
 け男は徳助と云ふれひことと。おと物と云ふ人

の別もを急がせん是生りやうと。ひげと
 よ似やえおげはんとこまにせおと
 こめ実心とこりいと。いよと。あひよ
 ものりとうしう升。又ナ布新とひそふ
 こは今れ二人の振舞海山むねよ。あま
 が大りの分判と。おそれうと。場悪
 り中りく理面と。もつひのりうて。たがひ
 よ及びそのとげ方方のと。あわうり
 悪し。下人かうハその方と。さき
 こまこむしや。あけ人のあま
 輝のさぎら何やうにも。信云
 うみ何うし。心む危れと。すん
 九

八洲版も君家と川と一札と云々

④ 一札と書て初く色れ友

源之助源之助一札書たり又と布の意と源
そのうと緒うんめんは和とけとハウ中極と何
りん自今ハ州の易れを形と中とく新と此方
さぬの由名も形り度とつ子成りて名とも中
さん其今の由つる奥のさうとハ分とれとこと
はのらハ作のとく由のちとく由重合氣中ハ之系
の権右坂松又と初と中表は後ハ由ハ中と
お少入との換授取人成て家ハ何も源と物同
徳有流と物と中表と一物と云ハ生れ対てれ

女さうしひ子たさの由たの〜とあ〜ハ成りて由
お合やさん其由方よハ我〜と由同家成り
くひてそのふたりく形り及由定て今にさるう
はてらんといふ又と布成て成りて家成てその
ひう〜ハ成りて子たよたぬされ〜なれたの
〜い〜と〜今れ〜ハ〜とや〜成り
よて〜合意とあり。種女めうけなと成り〜ハ
とだよ〜と〜名とぬまもけ好ハそき〜の
家ハ〜入〜。先野良なとハ物及のたの〜
はて〜といつ〜の〜の由〜成り
と云流と介成て〜身〜と〜云
子たよ由と成り〜なれ由樂と〜

八洲版も君家と川と一札と云々

十



とる。一の内あて多しと云ふそのうらむ
よハ修りわつゆ。傾必の内あてことかさり
とハりんまふ。無釋れ此云々。あて。男女とも
は性まよあひて。寔といふことなる。い
ろくれば。好まふは。海のせんうまの系。あ
そこをたたくと。筆を深のうま。作る文。あ
は道。無案内なる。あそ。い。の道。筆を
ありて。その。た。あ。の。ま。又。ハ。その。極
情を。あ。の。極。なる。む。傾。も
百人よ一人ハ。極の。も。あ。た。も。さ。う。た。
い。た。そ。ま。希。百人よ九十人。は。う。そ。あ。ま。
気。変。て。は。の。ま。い。う。あ。ら。良。ま。

十人よ一人とある。一と極と。うらむは。道ハ。合
極。次。又。この。方。れ。を。わ。一。ま。さ。の。極。ハ。文
徳。小。縮。物。の。正。極。も。その。極。の。ま。い。大。極。も。筆
は。て。極。極。の。方。回。合。れ。本。極。極。よ。い。文。文。の。花
足。り。よ。嘆。せ。て。何。ま。れ。傾。可。入。か。と。を。ま。
水。清。之。流。よ。ハ。本。極。極。の。花。盛。り。あ。と。あ。す。よ。ハ
寔。と。ま。ま。さ。は。て。あ。ひ。あ。り。か。人。文。の。ま。よ。と。ひ。て
極。れ。食。養。さ。り。と。ハ。筆。を。あ。り。極。り。よ。男。女。を
極。道。の。た。の。一。ま。の。作。を。わ。ら。う。なる。ま。極。の
清。的。が。云。筆。にも。一。切。世。界。れ。男。女。人。あ。り。ま。よ
ひ。ま。あ。り。と。い。ひ。極。り。ハ。女。の。面。ハ。白。極。よ
極。ま。び。り。ふ。る。井。を。わ。り。遠。と。そ。あ。ひ。と。

けりし質のよきと云。為せむは是の終りに
 切らぬのさう棒とまゝとまゝ月夜のみしらに
 うやうのうとあつちをさす一筋れ中をさす
 とはしく不棒のわりありをさす女よとくとも
 さ又一筋よありて文章あり。あにぬんは
 色のしらハ樂しみ氣とらととらわたり
 神れとわたりわ。んくのとくすま
 一なうわ。そのか又星のさたる百白と
 くともまゝのさとしはの業れ海と下と
 ほんよとゆ

⑤ 都れ返りとお。娘れ美六山下の風

乃せよとくんおて云板行きさあぬれぬを
 志板よあをとながととくく何れとさま
 がくくさうハ私着あひこは岡ぬうらと
 けねぬさかぎ。實れ美六のうをさすあり
 此をぬくやせん。美六のさすは人よ傾國ハ
 やよぬよとす紙圍を酒とす所めて実名ハ
 いとと実名とと。さうと海の波布板又
 うそつこの名をの棒かて見のさあす
 書あしれ美六のさすは人よ傾國ハ
 ぐさそのか秘蔵んけし人ぬぐうハを
 字のゆきの花盛三人なとけし紙圍れ花
 尾廻りとして美六は腰けけたとさ

その年一りして二八を十八九とす久そのり
はくしとて漢れ季夫人虞子思家り約え
八清和天皇の后より深敷れ后の化境より
夫人れ紀降やんとなるとり通よりしと事
たり。御より決帝命よりありけるハウ中根はもい
根ねり其よりしりあびぬとね風はそと事
はあし一様根れ風信ハ花よみの祥ありめ日頃
れ祥ぐひ気とて何とて使りと求め度なる
家来よとて下女の神とて下とあは
けりよ然新町急よ陰きたれ分派しとの事
ひしよ父ハ八女身とてとととさきり母兄
か像はて二とよとあよ似合れ保よけり

あしと病よとてとて病より親聖一母り事と事
く笑より急れ保保とてとてとてとてとてと
あたつひよりとてとてとてとてとてとてと
ら却り保善よ急ありしと物月才の事
あはしと保りと求光と送りしとよい
善保もとれ中又かしとととととととととと
母よりあり押してとととととととととととと
母も保よあつとつりまいつと保保とととととと
とてとととととととととととととととととと
といしとまいつととととととととととととと
れ保心よりあまるとととととととととととと
の事れ保とととととととととととととととと

世といふはこそかくはありしぞうし。のんききは男ら
 さるゝといふまじきこゝろ。うぐふ山下。奥女大和。有紀
 多紀。決命。そが。藤。をの。こ。う。も。こ。の。ゆ。け。す
 ほか。う。に。は。なる。ゆ。し。こ。よ。せ。ひ。な。さ。さ。り。と。そ。え
 ぬ。こ。の。こ。も。れ。と。ま。り。ゆ。ら。び。と。あ。ら。り。の。お。よ
 飛鳥川。あら。八。解。と。なる。を。あ。り。さ。も。

あり。そ。あ。に。い。ん。ら。わ。け。ま。り
 ぞ。よ。び。ご。ろ。の。り。も。と。ね。も。わ。らん。志。う。い。は。ね。ご。の
 ね。あ。に。い。ん。は。や。ゆ。を。さ。あ。ら。る。す。こ。う。い。り。あ。い。し
 ごと。そ。り。い。さ。あ。に。し。一。年。も。い。あ。の。こ。ろ。あ。わ。も
 ころ。の。り。機。あ。よ。て。ゆ。じ。と。ゆ。ぞ。と。ハ。笑。ま。り
 その。ゆ。の。り。ハ。な。せ。ぬ。こ。も。こ。ろ。い。だ。ら。う。ひ。は。る

介。れ。い。げ。あ。ら。う。い。ん。の。ゆ。と。川。は。流。ハ。東。に。あ。り。ま
 う。と。ゆ。こ。も。と。ね。の。う。と。そ。ま。や。さん。と。大。魚。池
 子。よ。か。う。い。ん。あ。べ。れ。あ。く。ら。り。な。ま。り。の。し。ゆ
 流。し。介。あ。て。た。せ。の。ゆ。を。こ。き。なる。事。と。い。す。の
 う。か。そ。ま。い。い。れ。女。さ。う。い。ハ。あ。ら。う。と。大。教。中
 及。れ。あ。き。ご。の。あ。ら。う。い。ん。今。れ。女。沙。流。甚。以。て。た。り
 う。と。吹。あ。ま。ま。川。の。流。さ。あ。ら。う。ま。り。年。洗。ら。ん。と
 た。川。と。又。す。ゆ。た。し。と。あ。ら。う。ら。ず。ん。と。あ。ら。う。い。ん。と
 も。あ。せ。つ。い。れ。げ。け。う。ね。あ。ぬ。な。り。お。き。ぬ。ハ。流。り
 の。よ。ね。と。あ。ら。う。い。ん。と。さ。ら。た。れ。た。す。ま。り。あ。ら。う。い。ん
 ら。ん。や。せ。れ。ぬ。い。ん。と。さ。ら。た。れ。た。す。ま。り。あ。ら。う。い。ん
 た。ぐ。い。ん。と。さ。ら。た。れ。た。す。ま。り。あ。ら。う。い。ん。と。さ。ら。た。れ。た。す。ま。り

れをこころとぬらんとつ子懐を御けよむる
作せとのゆ方八こめく女道れ清修作定て
比道の貴と所物終りやめんといふてあ亭るの
深を海 籠子といひわけぬ人の中へつらまう
清修室おハ亭るう智無自慢中げ今敷ハ宅
かくれ清修室の角のりらならりて百八纏
れ敷けのり今云うる孫まひ智無と中
室そかへ清と物極るにそくハ女道れ清閑
お清森古海とややさん又ナチや松ハありハ色
女乃れ清修室人こもも冥相獲大山とややさん
然ハ敷乃よいさざうと清修終のなきて學ハ敷
よハ今敷ハ色ざうりれ清修室よまくくゆ夜の水

お作清修室の清之物極る道れハ事な所
たぐ一ハ事と一札能名又ハ清修無ハ事
たけ清修室あま又ナチ松よハ女色れ無ハ
ちハあまれ物終りも清修終このころう
一札又おあそらハ女色ハ事れハ事ハ後
追風乃七とくしとてわう一書け書言
別袋れ去用がハ書徳玉ハ今所持ハ
あハヤ後者そてぶさうこまこと冥眼
介まう松ハ女色ハ事そのハ女色ハ事ハ
次清の敷ハ美ハ女道の相引女道れ大山
ハ敷無ハ事と大汗修ハ事とてハ事

おたはせこれ卯一^しはれ事^{こと}はよるこみれと^と新
智^ちをう^うの^のく^く文^{ぶん}殊^{じゆ}や^やの^のれ^れ源^{げん}を^をあ^ある^る程^{ほど}
び^びこ^こら^らに^に新^{しん}表^{へい}好^{こう}文^{ぶん}本^{ほん}れ^れ勸^{くわん}進^{しん}相^{さう}撲^{ぼく}子^し
れ^れ趣^{すう}向^{かう}か^かあ^あら^ら次^じの^の表^{へい}好^{こう}色^{しき}取^と國^{こく}の^の勝^{しょう}負^ふと
さ^さご^ご知^ちん^ん今^{いま}實^{じつ}を^を不^ふ通^{つう}れ^れ口^{こう}論^{ろん}が^が中^{ちゆう}と^とし^しと
あ^あり^りし^しう^うし^しう^うそ^その^の所^{しょ}あ^あん^ん彼^か是^ぜれ^れま^まか^かど^ども
所^{しょ}た^たう^うひ^ひよ^よ所^{しょ}殺^{ころ}せ^せり^りて^て何^{なに}の^のま^また^たの^の殺^{ころ}
れ^れあ^あら^らと^と相^あう^うら^らき^きこ^こ殺^{ころ}ぐ^ぐま^まい^いそ^そを^を殺^{ころ}す^す
れ^れは^はあ^あの^のま^まい^いこ^こま^まら^られ^れし^しと^とし^しや^やま^まり^り

る^る為^{ため}に^にこ^この^の巻^{まき}を^を終^はる^る

七

